

持続可能な自活する地域へ
—離島コミュニティの世代間
バトンリレー

しまらぼ

作成者：灘波桂子

目次

I. 目的

II. 概要

III. 実施内容

1. 事前調査

① ヒアリング内容

② アンケート

③ ワークショップ

④ 視察

2. パイロット事業

⑤ 企画

⑥ 事前準備

⑦ 実施

⑧ 振り返り

IV. 考察

V. 今後の展開

I. 目的

しまらぼは、2014年から佐木島での様々な活動を通じて島民と関係性を築いてきた。島の前線で活躍する島民は70代が中心となり、60代が若手といわれるのが現状である。そのため、島での活動が継続するにあたり、島側の受け皿となっている島民が年齢を重ね高齢化が進んでいるのを目の当たりにしてきた。3年間の活動を通じて、島で活動をしている島民が担い手不足を課題と感じていることが、コミュニケーションを重ねるなかでも時折話題としてあがるようになってきた。

「島に若い人はおらん。島にいたとしてもなかなか出てこん。」

実際、3年の活動を通じて若い島民に合う機会もあまりなかった。せっかく島を盛り上げようと島民主体でトライアスロン大会、塔の峰千本桜などに取り組み佐木島を盛り上げてきたにもかかわらず、このままでは佐木島の活動は先細りしてしまうのではないか。これからの持続可能な佐木島の活動を考えると、今まで接点を持つことがなかった若い世代を担い手としてつなぐことが必要不可欠となるのではないかと、担い手不足という課題を意識するようになる。

まずは、本当に若い島民がいないのか、島にいる若い世代に焦点をあて、若い世代の存在・実態を調べるべく、今回のトヨタ財団のしらべる助成の申請に至る。もし、若い島民がいるのであれば、コミュニケーションを重ね関係性を築いていくことも念頭に置いて活動を行う。願わくば、若手世代が自分たちの生活や今後の島のことを考え、自ら小さな1歩を踏み出すきっかけをつくり、今後の島の活動の継続に向けて一助となることを目的とする。

Ⅱ. 概要

今回のしらべる助成では、若い世代に焦点を絞り、実態を把握すること、接点をもつことを第一の目的としているため、事前調査に重点を置き、下記の通りプログラムを組む。事前調査として①ヒアリング、②アンケート、③ワークショップを行うことで、より島の実情を把握することを主目的とする。さらにヒアリングを重ね、④先行事例の視察を行い、パイロット事業に向けて企画を立て、準備、パイロット事業を行う。パイロット事業を通じて、若い世代の今後の活動への小さな1歩となることを目指す。

1. 事前調査

- ① ヒアリング内容
- ② アンケート
- ③ ワークショップ
- ④ 視察

2. 企画

3. 準備

4. パイロット事業実施

5. 振り返り

6. 報告書作成

7. 島へのフィードバック

当初、若手として60代未満をターゲットとして設定した。しかし、アンケートを実施した結果、ターゲット層となる60代未満の回答者の比率が低いこと、数少ない若手の回答者と接点をもつことが難しい状況を踏まえて、ターゲット層を60代までと広げることとした。

本来、上記の通りパイロット事業に向けて先行事例の視察を行う予定であったが、島の行事や農作業でスケジュールの調整がつかず、パイロット事業を行った後に振り返りも兼ねて視察を実施することとなる。

必要に応じて、各プログラムは、しまらぼ以外のメンバー（京都造形大学の社会人講座「ふるさとという最前線」のクラスメート）によるサポートもあり実施された。各プログラムの詳細については、実施内容に詳しく記載する。

Ⅲ. 実施内容

1. 事前調査

① ヒアリング

実施時期	4月25日(火)～28日(金)
対象	20名(島内在住者：14名 / 島外在住者：6名)
目的	佐木島につながる各所に、今回の助成金プログラムの趣旨と内容を説明。今後の活動について理解と協力を要請。現地調査のヒアリングも兼ねる。

ヒアリング内容：

三原市役所 地域振興課	鷺浦町(佐木島)担当職員：Hさん(40代男性) 鷺浦町(佐木島)元担当職員：Aさん(40代男性)
地域の担い手不足は三原市としても把握している。ここ数年、外部から佐木島で活動している人が増えているが、関係者からは島内の受け皿となる人が少ないとの意見も耳にしている。三原市としても島外で活動している人をつなぐまでには至っていない。今回のプログラムの趣旨を説明したところ、2014年に三原市が実施した調査の情報を共有してもらえたので、今後実施するアンケートの参考とする。2017年は島内で地元のスーパーのフレスタがトマトの養液栽培を開始、夏には建築を学ぶアジアの学生が集く「アジア建築学生サマーワークショップ」が行われると案内を頂く。	
佐木島須ノ上集会所	Mさん(鷺浦町内会長兼須ノ上地区長：60代男性) Yさん(須ノ上地区長代理：60代男性) Kさん(八重潮の会発起人：50代男性) Hさん(消防団須ノ上班部長：40代男性)
今回のプログラムの趣旨を説明すると「島に若い人はそんなにいない。若い人がいたとしてもなかなか出てこない。島の人にはそんなに将来のことは考えていないのでは？」との第一声があがる。島で若い人が集う場を訪ねると若手が一番集まる場は消防団の集まりだが60代未満となると、消防団員だけで半数の20名になってしまうとのこと。しかし、考え方によっては20名は島に対象となる世代がいるということになる。島の若手でキーパーソンとなる人はいないかと尋ねるとYさん(40代女性)の名前があがる。「Yさんに頼まれると断れないような人もいるのでは？」と島のムードメーカーのような存在がいることを知る。滞在期間中にトライアスロン実行委員会の会議があり、Yさんはじめ、ほかにも島の人々が参加しているので、今回のプログラムの説明をする良い機会となるので顔を出すよう提案があがる。	
0さん宅	0さん(さぎしま物産部会会長：70代女性) Yさん(須ノ上地区長代理：60代男性 集会所のヒアリングから) Hさん(消防団須ノ上班部長：40代男性 集会所のヒアリングから) Nさん(ボランティアガイド・移住者：40代男性)
0さんは、退職後に広島市から旦那さんの実家がある佐木島に移り住み、島の方と一緒にボランティアガイドを結成した人で、以前からしまらぼの活動を島側でサポートしてくれている。ヒアリングというよりは普通の飲み会に近い状況だったが、若手を引っ張り出すのは難しいのでは？という反応もありつつ、真剣に話を聞いてもらう。若手で巻き込んでほしいような人がいるか尋ねると、ここでもYさん(40代女性)があがる。数年前に佐木島へ移住したNさんからは、「タイミングが合えば参加します」と、コメントをもらう。	

Iさん宅	Iさん(移住者：60代男性) Yさん(須ノ上地区長代理：60代男性) Hさん(消防団須ノ上班部長：40代男性)
Iさんは約5年前に佐木島に移住してきた移住者で、島で困っていることなど島の実情を教えてください。しまらぼが行う援農もIさんとの話がきっかけになっている。今回も島の状況を伺いながら雑談が中心となるが、プロジェクトの趣旨を説明すると継続的に島で活動していることに関してエールをもらおう。必要があれば、コミュニティセンターのMさんにサポートしてもらおうようアドバイスを受ける。Mさんは以前から色々とサポートしてくれている存在。	
鷺浦小学校	N校長先生
小学校も現在10名の生徒がいるが、6年生3名が卒業すると生徒が減る可能性がある。三原市から特認校の指定を受け学区外からの児童を受け入れる体制を整え、週4日ALTが常駐して英語教育にも力を入れている。現在、島外から2名の生徒が通っている。小学校の告知もぜひ手伝ってほしいとのこと。6年生の英語の授業に参加させてもらったが、人数が少ない分、1人ひとりが主体性をもって動いている姿が印象的だった。	
トライアスロン 実行委員会	Hさん(2017年実行委員長：60代男性)、 Tさん(50代男性)、Mさん(60代男性)、Mさん(50代男性) Yさん(40代女性)、Nさん(前鷺浦町内会長：60代男性) Kさん(八重潮の会発起人：50代男性) Hさん(消防団須ノ上班部長：40代男性)
トライアスロン実行委員会は歴代の実行委員長を務めたメンバーが多く所属し、それぞれの経験を活かしてサポートできる体制になっている。佐木島出身は三原市内在住の方が多いという情報を得る。ここでキーパーソンとして名前があがったYさん(40代女性)も出席していた。Yさんから町内でビーチバレーボール、ソフトテニスのアクティビティの紹介を受ける。ビーチバレーは平日夜間に不定期で行われているが、島の若い世代の参加者がいるとのこと。今回のヒアリング時にビーチバレーには顔を出すことはできなかったが、島の若い人の話を聞くことができ、今まで見えていなかった佐木島の一面を知ることができた。	
高根パラディーゾ	Oさん(佐木島出身者／高根島在住)
2年前、島で知り合った唯一の若手Oさん。島で何かをやるにはハードルが高く、島で変な噂が一度でも流れるとアウトという閉鎖的な環境は否めない。佐木島に関しては島外から活動している団体もあるが、あまり手を加え過ぎず、島に馴染むようなものと良いのではないかと。島の魅力は島でゆったりした雰囲気を楽しむだけでも十分伝わる。隣の尾道では、街づくりのキーマンの同級生ネットワークがあり、誰かが何か始めるとみんなで一丸となってサポートする体制が整っている。三原まちづくりという団体の原田さんが創業支援を中心に三原市内でいろいろやっているとのこと。話を聞いていて、佐木島への想いが伝わってくる。	
尾道にて	Tさん(みかん島プロジェクトメンバー、八重潮の会発起人)
2016年に発足した佐木島で活動しているみかん島プロジェクトの内容を伺う。もともとは商品開発でプロジェクトに関わっていたが、担当者がプロジェクトを外れることになったため後任を引き受けた。みかん島プロジェクトとしては耕作放棄地でみかんを作りながら収穫時期に人を呼んでイベントをやることを目標としている。2017年は広島県のこころざしプロジェクトで島民と一緒に塩炊きのイベントを企画している。普段は三原市内で手芸教室をしている。	

福山にて	Iさん(佐木島在住)
<p>プログラムの話を聞いてYさん(40代女性)を紹介しようと考えていてくれた。アンケートについて、①島の人を楽しそうと思える内容、②配布方法についてアドバイスをもらう。その場でYさん(40代女性)と連絡を取ってくれて、知り合いの若い世代の人に直接アンケートを配布してもらうことになる。餃子パーティーなどみんなで楽しめるイベントをやってほしいとのリクエストもあがる。</p>	
福山にて	Fさん(ふるさとという最前線6期受講生)
<p>アンケートの回収方法などのアドバイスをもらう。コミュニティセンターの担当者には、具体的をお願いをするようにして巻き込むようアドバイスをもらう。財団の授与式に島の人を招待したら島の人をもっと巻き込めたのでは?との意見をもらい反省材料となる。今回のプロジェクトには、動ける範囲で協力してくれるとのこと。</p>	
まちづくり三原	Kさん
<p>挨拶を兼ねて訪問したが、代表の原田さんは不在だった。佐木島で活動しているみかん島プロジェクトを応援しているとのこと。三原市内で巻き込んでいけそうな若者がいないか尋ねると如水館高校の生徒は巻き込みやいかもしれない。市内に広島県立大学があるが、市内で活発に動く学生は少なく、地元の県立大学の学生がまちのイベントを手伝っているのをあまり見かけない印象をもっているとのこと。三原市で活動をしているキーマンとしては、移住促進などを行っている府中市拠点のアルバトロスという団体、サクラサクという家具屋の名前があがる。佐木島のイベントなどについて市内ではあまり情報が耳にはいってこない印象がある。島ということもありわざわざ行くというイメージがある。ただ、三原市内で佐木島は注目されていて、三原市も力をいれている。</p>	

② アンケート実施

実施時期	4月末～5月
対象	島民、佐木島出身の島外在住者
目的	① 現状把握（島民の意識調査、実態把握） ② 2017年の調査活動を知ってもらう
配布方法	① 町内会3地区各区長経由 ② 直接面識がある若手世代経由（Yさん、Hさん経由）
実施状況	配布枚数：227枚（島内：110枚・島外：117枚） 回収枚数：67枚（島内：36枚・島外：31枚） 回収率：30%

アンケート結果による考察：

- 1 今までの活動でリーチできなかった島在住の20代未満の島民の回答を得ることができ、面識のない島民の存在を顕在化することができた。人数としては少ないが、アンケートに回答してくれた若い世代層との接点を探る必要がある。
- 2 島外の回答も多く、佐木島と島外来島者との交流人口が一定数いることがうかがえる。
- 3 島民、島出身者の60代未満のターゲット層以外の回答が多く、ワークショップのターゲット層を年齢で縛らず広げるか要検討。
- 4 アンケート内容が島の将来に対してストレートな質問となってしまったが、ストレートな質問に対して、きちんと回答している人も多く真面目な島民性を伺い知ることができる

島内在住者

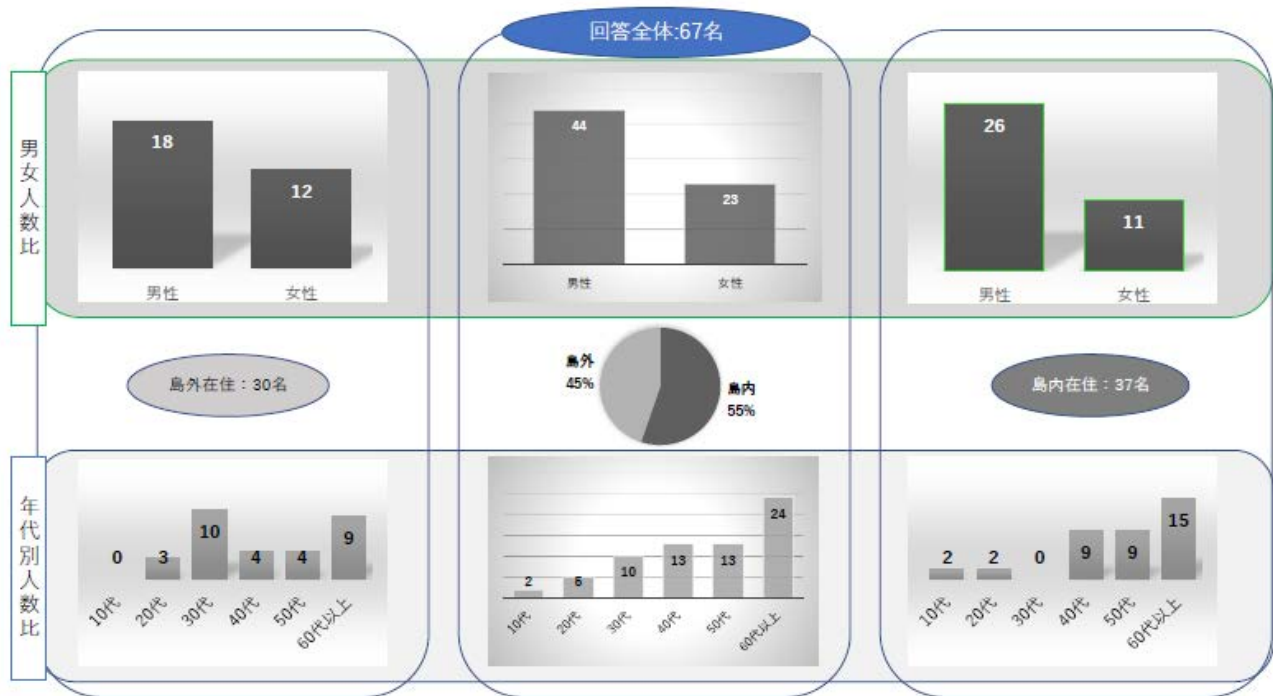
- ・割合は少ないが島内在住の若い世代がいる。
- ・約90%は島内・三原市近隣で働いている。
- ・島内の活動も多いが人によって活動数の差がある。
- ・人手不足・負担を上げる声も見られるが、楽しく活動している方も見られる。
- ・相互援助できる環境がある
- ・自然や人の温かさもあり、暮らしやすい。

島外在住者

- ・約55%が島出身者、約45%は島外来島者
- ・出身者の約60%は年1回以上帰省している。
- ・出身者のうち10%はUターンを考えている。
- ・島外来島者45%ということは交流人口が一定数いることがうかがえる
- ・島の自然や人に魅力に感じている人が多い

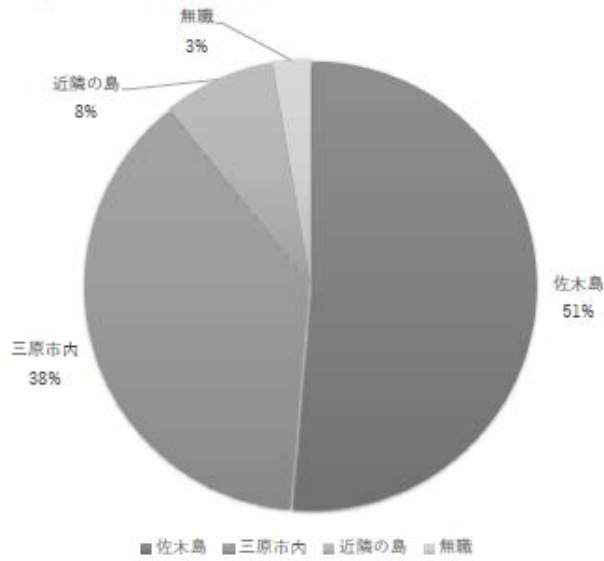
- ・島外の佐木島ファンが一定数いることがうかがえる
- ・島内・島外とも、島の自然や人に魅力を感じている点は共通している
- ・アンケート回答者の約30%は現在の島の生活・環境に満足している。（そのうち約80%は10-50代）
- ・島の将来について不安を感じている人も多いが、変わらずに頑張っているという声もあがった

アンケートの結果：

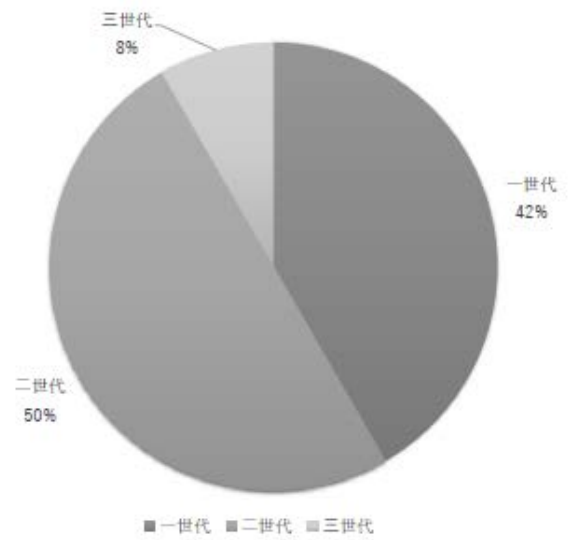


島内在住者

職場はどちらですか？

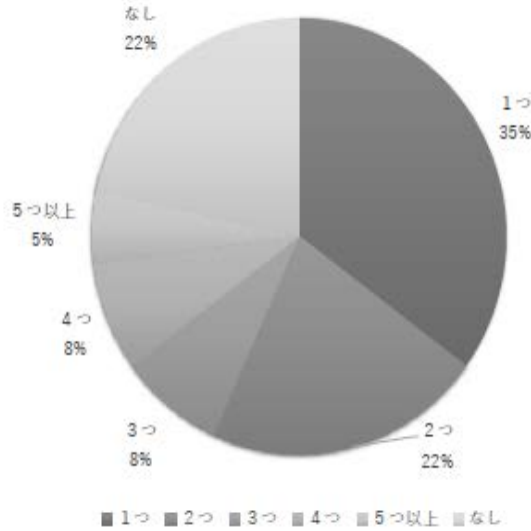


何世帯でお住まいですか？

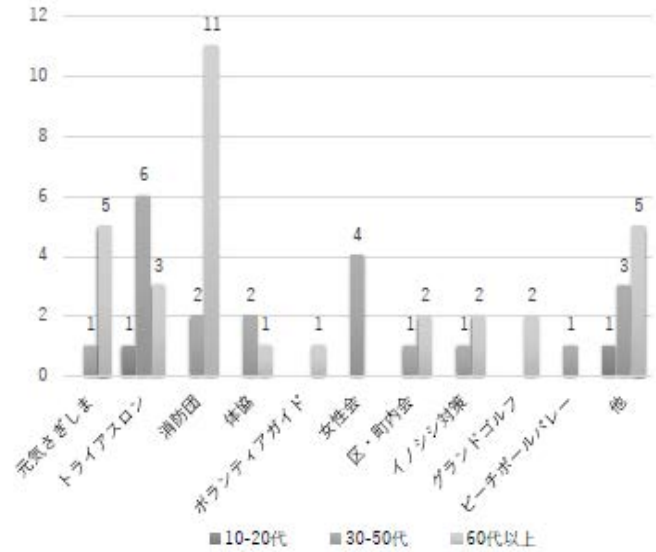


島内在住者

島内で参加している活動数はいくつですか？

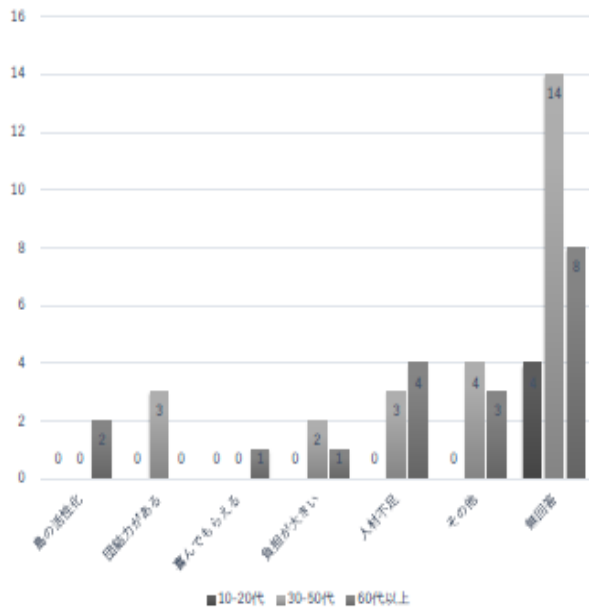


参加している活動は？



島内在住者

島内の活動に参加して思うことはありますか？

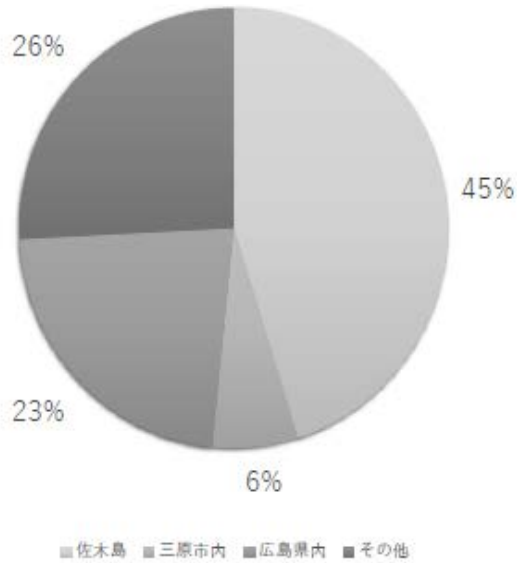


<主なコメント>

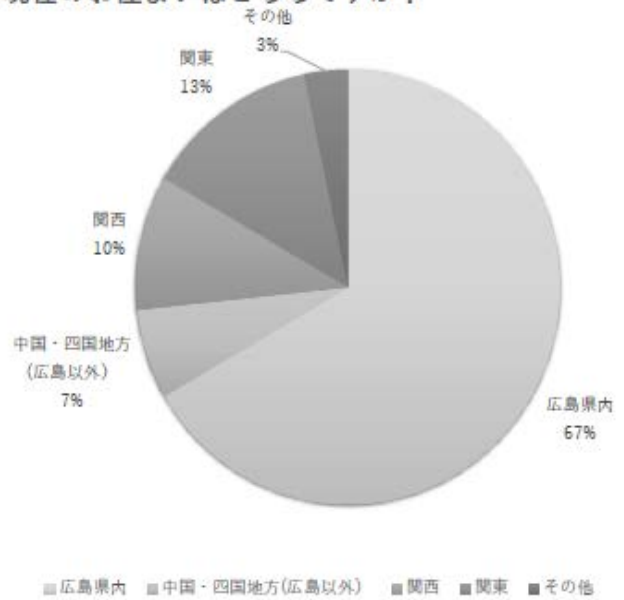
- ・ボランティアや女性の活動が活発で非常に有難い
- ・喜んでもらえるとうれになる
- ・ここ数年観光誘致に尽力している
- ・定年を過ぎた人材が多く活発に活動しているが若手がない印象
- ・歳の差が関係なく力を合わせて活動している
- ・若手の負担も大きい
- ・多くの組織に所属すると全ての人が長をするので、誰でも出来る様な体制作りをする
- ・多くの活動に参加しており、それぞれの活動が集中すると疲れる

島外在住者

出身地はどちらですか？

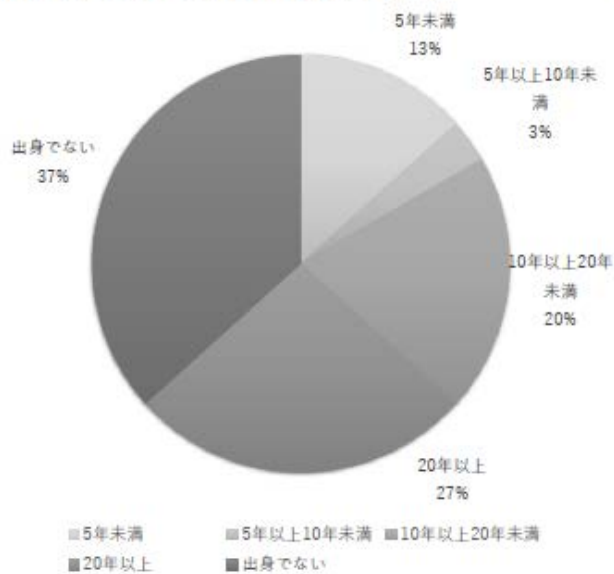


現在のお住まいはどちらですか？

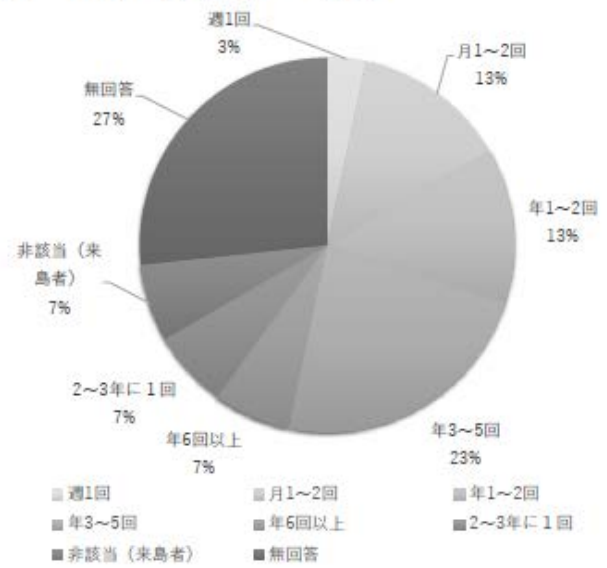


島外在住者

佐木島を離れてどれくらい経ちますか？

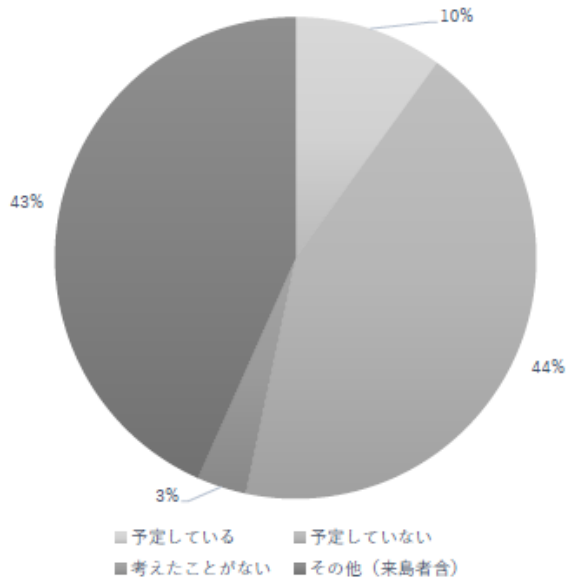


島への帰省の頻度を教えてください



島外在住者

島に戻ることをお考えですか？



<主なコメント>

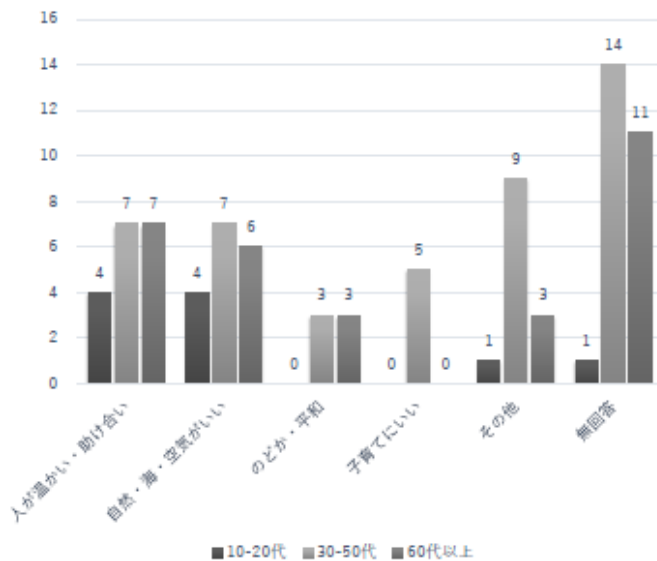
「予定していない」理由

- ・近く(三原)に住んでいるので、必要な時にすぐ帰ることが出来る
- ・結婚して家を持っている
- ・島外の人と結婚したため
- ・三原か、尾道に住むことを考えている

「予定している」理由

- ・退職したら実家の土地を引き継ぐことを考えている
- ・退職後、のんびりしながら何か自営で生活していけたらいいなと考えている

佐木島で良かったと感じることを教えてください。



※島内・島外在住全ての回答に基づきます

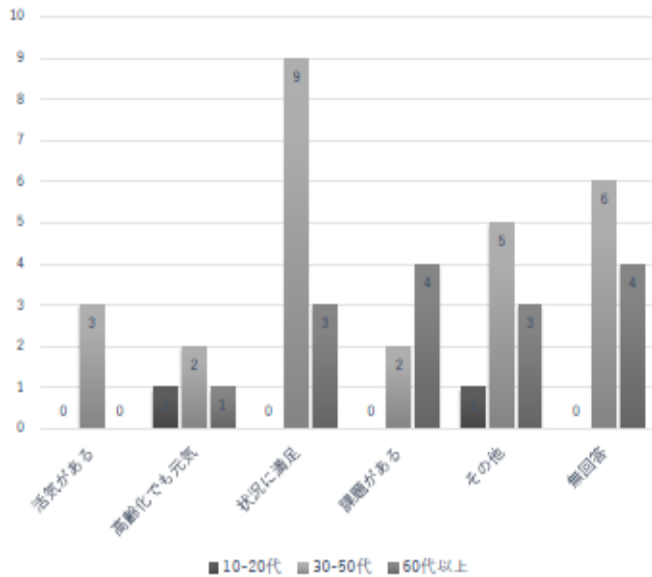
島内在住者

- ・自然が素晴らしい
(海がきれい、空気がいい等)
- ・人情が温かい
- ・結束力が強い、仲良し
- ・鍵をかけなくてよい

島外在住者

- ・いろいろな活動をしていてすごいと思う、活発だ
- ・自然が豊かで癒される
- ・何か手を打たないと人口が減って住みにくくなるのでは
- ・観光客が増えて盛り上がっている
- ・見かける方は中高年齢の方が多いがとても元気

今の佐木島について感じることはありますか？



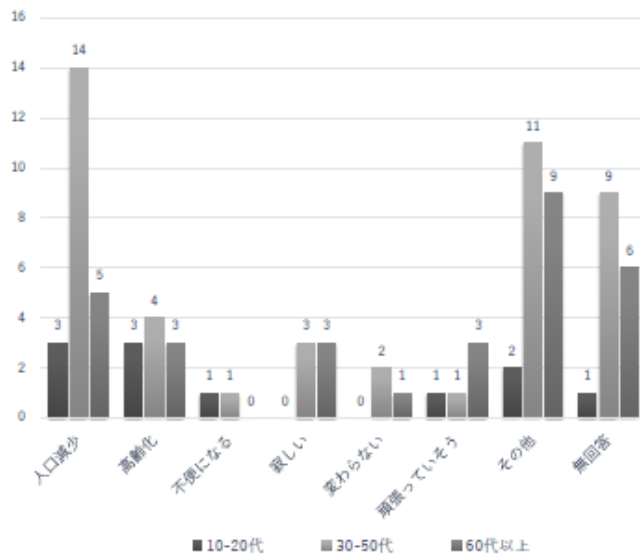
※島内・島外在住全ての回答に基づきます

<主なコメント>

- ・住みやすい、平和
- ・いろいろな人に出会える
- ・進化している
- ・不便もあるがまだ大丈夫
- ・人がいい
- ・千本桜などいろいろな活動が素晴らしい

- ・ゴミが多い
- ・若者の後継者数が減っている
- ・活動の負担が大きい
- ・少子高齢化
- ・活動している人としていない人の間に温度差があるように感じる
- ・島外からの受入れを活性化したらいいのでは

10年後の佐木島の姿から何を感じるとおもいますか？



※島内・島外在住全ての回答に基づきます

島内在住者

- ・人口が減っている
- ・高齢化が進んでいる
- ・学校が無くなっている
- ・地域活動の負担が大きくなっている
- ・消防団の縮小、火事が心配
- ・船の便が減っている

島外在住者

- ・過疎が進んでいると思う
- ・高齢化している
- ・さびしい
- ・相変わらず、帰りたと思う場所
- ・若者の島離れが進んでいる
- ・空き家が増えている

③ ワークショップ

A. PR活動

実施時期	6月3日（土）
対象	グランドゴルフ大会参加の島民を中心とした島民
目的	1. 若い世代との接点をつくること 2. ワークショップの告知 3. ワークショップ参加を呼び掛ける。

アンケート実施からワークショップ実施まで2ヶ月弱と期間が短く、新たな若手世代との接点を増やしワークショップへの参加を促すために、毎年6、11月に行われるグランドゴルフ大会にカフェ出店をし、島民との交流を図った。2014年に、しまらぼの前身である「ふるさと6期（社会人講座）」のプロジェクトにて、グランドゴルフ大会でカフェ出店をしているメンバーがいたので、そのメンバーの協力を得て実施した

グランドゴルフ大会は、島の10代～80代まで幅広い世代が集まる場でもある。カフェでの会話を通して実家を継ぐためにUターンした20代男性、中学生をはじめ、さまざまな世代の方と会話をしながら、ワークショップの告知をおこなった。

PR活動から得られた情報：

- ・島の生活に即した消防団や町内会などの共助活動は若手も役割を与えられ参加しているが、観光ボランティア、美化活動など交流人口に関わる自発性をともなう活動には、島出身・在住の若手は参加していない。後者は日中の時間を割けることが定年退職した世代が中心になっている。
- ・アンケートや大会でのカフェを通じて、中高生は人数が極めて少ないが、交流イベントなどには関心があることが見受けられた。

B. ワークショップの事前準備

アンケート回答者へのアプローチ

アンケート回答者にはアンケート協力のお礼とワークショップの招待状を送付

ワークショップ企画にむけてのアドバイス

- 山崎亮さん、西上ありささん(Studio-L/ふるさと6期講師)
 - ・良質なインプットなきところに良質なアウトプットなし
 - ・楽しさなくして、参加なし！人を集めるには楽しい要素が大切。みんなが参加したいと思うような仕掛けが大切。
 - ・若い世代（中・高校生くらいがベスト）がやりたいことをみんなでサポートすると周りの人を巻き込みやすい。
 - ・ワークショップで参加者が語りやすいような環境づくり、雰囲気づくりが大切！
- 岩本さん(友人/クックパッドなどのワークショップ企画・担当)
 - ・テーマに関して参加者がどんな話をするか想像してみる
 - ・ワークショップで何を指すか目的を明確に立て、話をしてほしい目的に対し具体的な問いを立て、WS全体のストーリー、流れを考える。
 - ・既存のフレームワークをベースに考えるより、目的・目指すものに対して、どんな話をしてもらいたいのか、自分たちで具体的に考えて組み立てた方が伝わりやすい。
- ワークショップデザイン講座より
 - ・ワークショップをデザインするための概論的な講座だったので、ワークショップ全体のプログラムを作成するにあたり参考にした。
 - ・意見がなかなか出ないときの工夫はなるべく書いてもらうこと。書くことで発表しやすい環境をつくる。

アドバイスを含めて参考にした部分

- 楽しむ要素
 - ・島の特産品である柑橘、マーマレード、ジャム、かひねりなどを使い、フルーツポンチやかひねり入りの白玉、ジュースを準備して参加者に提供して楽しんでももらう。
 - ・各地からサポーターとして駆けつけるメンバーにご当地スナックを持ち寄ってもらい、スナック食べ比べができる会を設ける
- BBQ交流会
 - ・アンケートで参加したいイベントで上がっていたBBQをランチタイムに実施。BBQだけでも参加できるようにして、楽しく交流できるきっかけを作る。
- 雰囲気づくり
 - ・開放的で楽しいリラックスをした雰囲気を出せるよう、会場の大きな窓から見える緑を活用してガーラントなどで会場を装飾して、フェスのような心地よい雰囲気をつくる。ワークショップのスタイルに合わせて席の配置も変える。

➤ サプライズ

- ・広島県で「しまのわ」を企画し、かねてより島に来てほしいという島の方の話を聞いていたこともあり、ワークショップの日程前後に広島県に来訪予定がある山崎さんと西上さんに限られたスケジュールのなかで佐木島へ来島いただけるよう調整。

告知方法

- 直接知り合いに声をかける
- 島内の新聞折り込み（佐木・向田・須ノ上3地区すべて）
- コミュニティセンター・鷺港の待合室にポスターを張り出す
- Facebook にてイベントページを作成
- ビラ配布（事前に把握している参加者が少なかったため、前日鷺港にて）

前日の作業

- ワークショップで提供する飲食の準備（島の方から素材の調達・しらたま作りなど）
- 会場の設営・装飾
- ビラ配布（事前に把握している参加者が少なかったため、前日鷺港にて）

C. ワークショップ 「私の暮らしと島の暮らし」

実施時期	7月1日(土)、2日(日)
会場	サギ セミナーセンター
目的	島の将来について考える場をより多くの島の方と持つ。
対象	島でくらす人、島で活動する人
プログラム	<p>i 部 座談会「島の暮らし」 ざっくばらんに島の暮らしについて語る場</p> <p>ii 部 BBQ交流会 参加メンバーで交流しながら、腹ごしらえ</p> <p>iii 部 ワークショップ「佐木島のイマ・ムカシ・コレカラ」 あらためて島の暮らしを見つめなおす場</p> <p>iv 部 ワークショップ「私の暮らし」 自分ごととして考える場</p>

上記の通り、週末の2日間にわたり4部制のワークショップを企画する。(初日：i-iii部/2日目：iv部)

より多くの方が参加しやすいように、1部ごとの参加もできるようにした。初日、ワークショップ後の交流会も考えたが、家族がいる若い世代を対象としていたためランチタイムに設定した。5月に実施したアンケートのなかで「今後やりたいイベント」としてBBQが上がっていたので、交流会にBBQとすることとした。



i 部 座談会「島の暮らし」	
参加者	16名(島内：13名・島外：3名)
目的	1. 島の暮らしについてざっくばらんに語り発散の場とする。 2. 午後のWSIに向けてのイントロダクションを兼ねる
ゲスト	studio-L 山崎 亮さん、西上ありささん
プログラム	・アイスブレイク ・3グループごとに座談会形式で島の暮らしについて語る座談会

アイスブレイクは島の人々の提案により、血液型で3つのグループに分かれて簡単な自己紹介を行なう。血液型に分かれたことで島内3地区の区民性の話に広がる。(鷺：, 向田：, 須ノ上：勤勉)

2つのグループに分かれて島の生活についてざっくばらんに話をする。グループごとに島の良いところや島で迎える終活などの話題が上がり、それぞれのテーマで参加者が意見を出していた。あるグループは、ふとした話から島で迎える終活へと話題が変わり真剣に語りあっている姿も見られた。

最後に各グループの内容を共有する時間を設けた。セッションの最後にゲストの2人から、それぞれコメントもらう。AI時代を迎えようとしている時代、人に共感する、共有する、人の営みとし

て大切なことがこの島にはたくさんあり、今、島にある宝を大切に、誇りにしていくことでAIが目指す世界と違った将来があるのではないかと、短時間ながら熱意のある山崎さんからの話に参加者は聞き入っていた。

・西上さんからコメント

数年前に「しまのわ」の一環でワークショップを何度か佐木島で実施したことがあり、当時は様々な反応があった。その時からずいぶん雰囲気が変わり、島がオープンになっていることに驚いた。島で迎える終活の話など、具体的な話も聞いてとてもよかった。



ii 部 BBQ交流会	
参加者	10名(島内：7名・島外：3名)
目的	島内、島外の参加者同士の交流を図る
プログラム	イノシシの被害も多く猪肉活用に興味があるという話を聞いていたので、サプライズとして高根島の「しまししソーセージ」「ししハム」を紹介したところ、興味を示している方もいた。



しし肉を「しましし」としてブランド化した高根島の長寿園の商品。佐木島でも猪の被害が多く、しし肉を活用できないか…という話が以前に出ていた。4月のヒアリングで訪れた高根島で紹介してもらったもの。

左：しし肉燻製スライス

右：しし肉ソーセージ

トライアスロン大会で販売している東北支援のチャリティTシャツは、毎年、色と背面の文字を変えていて、いわば、島のユニフォームのようなもの。この日は3色がそろってカラフルだったので、並んで記念写真を撮っている風景。



午後の準備もあったで少しバタバタしてしまっただが、運営側のメンバーと一緒にゆっくり会話できる状況にできたらもっと良かったが、限られた時間のなかで、参加者同士が気軽に話をして交流していた。

iii部 ワークショップ「佐木島のイマ・ムカシ・コレカラ」	
参加者	12名(島内：6名・島外：6名)
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・島の年表を作成しながら、島の過去・現在・未来を考える ・具体的にどんな島になってほしいか考える
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク：輪になって自己紹介（それぞれしっかりした自己紹介となる） ・島の今までを振り返りながら、年表をつくる。 ・島を振り返った話を考えながら、AIワークショップをベースにしたビジョンワークを実施し、粘土を使って島の将来を形作る。

アイスブレイクのあと、佐木島の歴史を振り返り、現在、これからと、参加者が一緒になって年表を作成するワークを行う。昔を懐かしむ話、変わりゆく島の話、自分たちが関わってきた話などがたくさん話題としてあがってくる。



粘土を使ったビジョンワークでは、ためらいなく手を動かす人、考え込んでしまう人など反応は様々だった。これからの島を思い描いて、おのおのの想いを形作ってもらい作品を通り、島への想いを発表してもらう。

参加者の作品(右)：

島をみんなで盛り上げているもの、
昔の資源の豊かさを表現しているもの、
島にあるシンボリックな木を形づくったもの
島と島が橋でつながったもの
子供とお年寄りが集まれるような施設 など



iv部 ワークショップ「私の暮らし」	
参加者	約5名(島内：4名・島外：1名)
目的	島の将来を考える、今、自分ができることを考える。
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・前日のワークショップを振り返る。 ・今後のアクションにつながりそうなアイデアを引き出す。



2日目は三原市長が来島して清掃活動の行事と重なってしまったこともあり、前日より参加者が減ってしまった。一方、初日から参加してくれた方も数名いたので、くつろいだ雰囲気でもより深く語る場となった。

初日からの参加者を中心にどんな島であってほしいか、どんな島だったら楽しくなるかという話をきいていく。すると、「人が集まる場」「それぞれの活動を発信する場」などがキーワードとしてあがった。

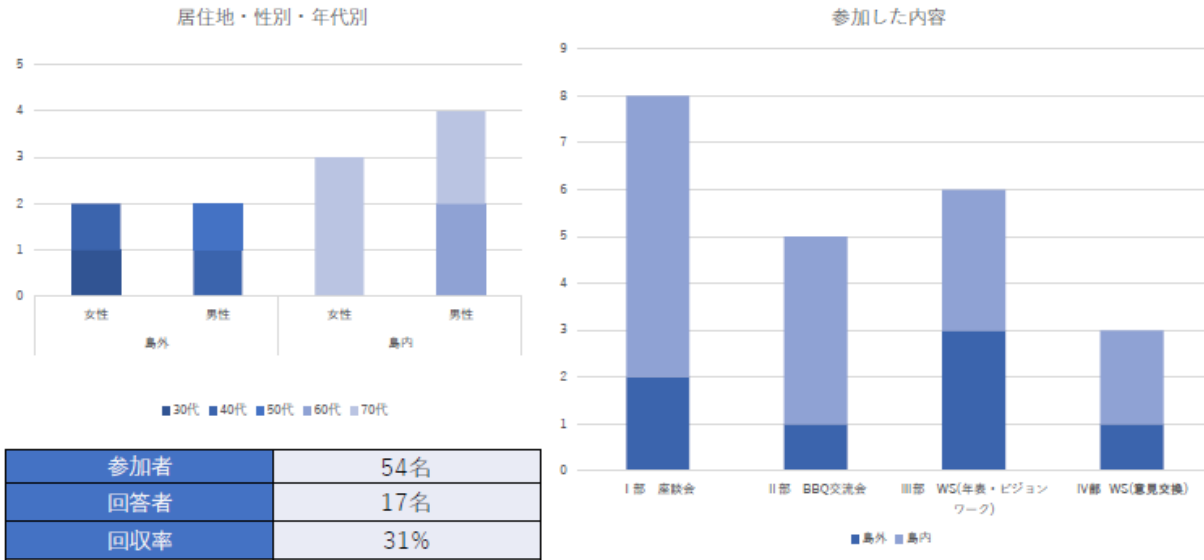
キーワードをもとに、更に具体的なイメージがつかめるような話をしていく。人が集まるためには誰かが常駐する必要があるのではないか、何か仕掛けを考える必要があるのでは？などの話も上がり、散歩やイベントで島内を歩いている人が休める東屋や辻堂のような手軽な場所の案もでていた。

最後に参加者でポイントを振り返り、ほかの地域の事例などを調べて改めて話をする場を設けることでWSを終えることとなる。

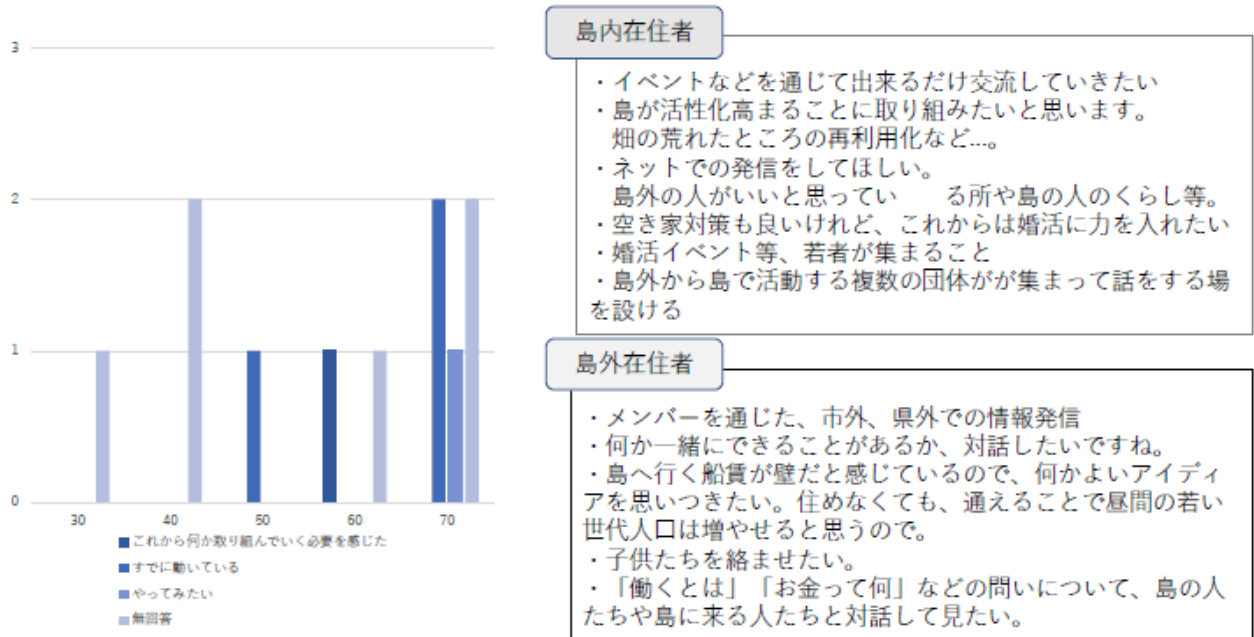


参加者のアンケート結果：

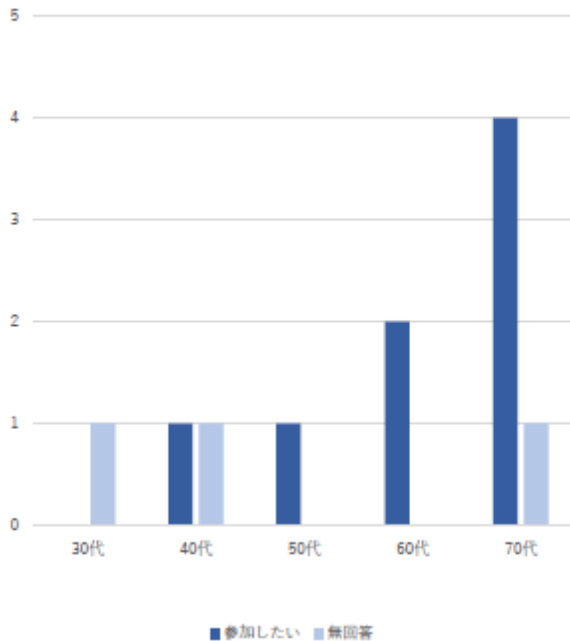
アンケート回答者について



ワークショップに参加して、何か取り組んでみようと感じましたか？



このような機会があったら、また参加したいですか？



どうして参加したいと思いますか？

- ・想いを語ることで気持ちが前向きになれるそう
- ・島の将来を話し合いたい。
- ・若い人、新人発掘に力を注ぐことが必要。
- ・佐木島の未来をみんなと考えて行きたい。
- ・刺激になる。
- ・様々な方々と語り合いたい。

島外在住: 50代男性

これからものんびりと活動できるとうれしいですね。

島内在住: 60代男性

一日のみの参加でしたが、いろんな人の思いを聞くことができ参考になりました。参加者がもう少し増えると良かった。

島内在住: 70代女性

年齢が高い人が集まっていたので終活になったようですね。若い人が集まって新鮮な話が聞きたい。

島内在住: 70代男性

建設的な意見が多かったと思いますが、意見にとどまらず実行力が求められています。

島内在住: 60代男性

非常に楽しく和やかに進行してとても良かった。区長、区長代理くらいは出席してほしい。

島内在住: 70代女性

円陣で話し合うと、気楽さとホンネが出易いと思いました。もっともっと時間を増やして島民の多数の参加があれば...と願う。※山崎先生にお会いできたことがうれしかったです。

島内在住: 70代女性

鷺浦小学校の取り組みが素晴らしい。学力重視だけでは人間力は育たないのでは。山崎亮さんの話でコミュニケーション能力が大切(例：東大出のお医者さんでもコミュニケーション能力が大切)

島外在住: 30代女性

いつもと違うメンバーの方のお話も聞くことができ、質の高い死というお話がとても印象的であれ以来、AIが進む世界の話と二つが常に頭の片隅にあります。

島外在住: 40代男性

様々なメンバーが集って意見交換する事は、視野が広がり、また、前向きなスタンスの皆さんに良い刺激を受けました。こんな場を各所で行われるようになれば、マチにも変化が現れるんだろうなと感じました。

参
加
者
の
声

D. 振り返り

実施時期	8月18日(土)
対象	河本吉重さん、濱本大輔さん、山根宗光さん(7月ワークショップ参加者)
目的	ワークショップに3部とも参加してくれた方を中心に、ワークショップの振り返りをしながら、今後のアクションについて島の方の意見や意向を引き出す。

ヒアリング内容：

- ・「人が集まる場」「それぞれの活動を発信する場」をポイントに、何かやってみたいこと、見てみたいことなど話を聞いてみる。
 - カキ小屋について、管理者
 - 旧須ノ上小学校や須ノ上地区にある集会所など活用したい場所、活用できる場所が上がる。
 - 自分たちで何をやりたいか、具体的な話が出るに至らなかった。島の人から自発的にやりたいことを引き出していくにはもう少し時間をかける必要があると感じる。
 - 満月の日のお月見イベントをしたい。
- ・今後のスケジュールの確認(視察・パイロット事業にむけて)
 - 9月末から10月は毎週末、島の行事が入っていて忙しい。時期的に9月前半か11月の方がすこし落ち着いているが、11月後半から繁忙期になる。

自分たちで何をやりたいか、具体的な話が出るに至らなかった。もともとの計画は、視察→パイロット事業の予定だったが、スケジュールを考えると逆の流れが良いという話になる。島の人から自発的にやりたいことを引き出していくにはもう少し時間をかける必要があると感じたため、もう少しコミュニケーションの回数を重ねて、より多くの島の人とやりたいことを話していくことが必要だったと感じる。SNSや電話を活用し、より密にコミュニケーションをとることが大切ということでグループラインを立ち上げ、コミュニケーションを図る。視察については、しまらぼ内で検討する必要があると、一旦持ち帰る。

④ 視察

A. 視察に向けてのミーティング

実施時期	11月23～25日
対象	河本吉重さん、濱本大輔さん、
目的	他地域の活動やその運営体制を視察することで、佐木島の今後の活動に活かす

ミーティング内容

当初は「視察→パイロット実施」の計画が、農繁期を鑑み逆の流れの「パイロット実施→視察」に変更したが、シネマイイベントを受け、他地域の活動やその運営体制への関心も生まれ、また島内でゲストハウスや喫茶店オープンの計画が始まるなど、交流人口を増やす場ができつつあるため、より具体化した話し合いをすることができた。

視察地域候補地は、島民としまらぼの移動や日程を鑑み、下記を当初候補としてピックアップした。

- ・ 興居島（愛媛県、松山）：廃校活用やマルシェの実施をしている
- ・ 江田島（広島県内）：地域おこし協力隊が中心になり映画上映会を実施
- ・ 大崎上島（広島県内）：マルシェなど、若手の活動が立ち上がっている
- ・ 百島（広島県内）：アートプロジェクトや若手の移住が進んでいる
- ・ 北木島（岡山県、笠岡諸島）：NPO法人が高齢化社会を支えている。映画館再利用プロジェクトも実施していた。
- ・ 島に限らず映画上映会の見学等：シネマキャラバンや尾道のカフェが企画している映画イベント等の見学とヒアリングの提案

視察地域の選定は、ミーティングまでもメールや電話を通じてコミュニケーションを重ね、「人口規模が佐木島と同等」「島が一行政体（市町レベル）ではないこと」「日帰りが可能な、範囲」が優先事項としてまとめ、百島、興居島、北木島に絞り込まれた。最終的に、規模感が一番近く、地域の生活動線を支えているNPO（NPO法人かさおか島づくり海社）が活動している北木島を視察することになった。

視察候補地の資料：

興居島(愛媛県松山市)

しまのてーぶる ごごしま

<http://shimanotable.com/>



廃校利用したカフェでのイベント一例




- ◎人口 1076名
- ◎世帯数 586
- ◎面積 8.49平方キロ
- ◎産業 柑橘、びわ、桃
- ◎交通 港が二つ(泊港、由良港)

他にも、ランイベント、お月見ライブ、芋炊き、花火大会鑑賞など開催している模様。



2時間50分 (100km)

最速ルート

道順など >> プレビュー

江田島

◎所在地/広島県江田島市
 ◎面積/100.70km2
 ◎人口/23,409人(H29.11.1)

◎アクセス/JR広島駅から路面電車で30分。広島港から高速船やフェリーで12~30分。

島外の人が参加できるイベント



島内で
Free
Wi-Fiが
利用可
能

映画上映会をこの秋に開催

- ・1,000人弱(人口の約4%)が参加。
- ・地域おこし協力隊の1名が実行委員長となり、地元の後援や協力を得て実施。
- ・4か所で実施だが、「1週間以内であれば、一定料金」というきを持っている場合もあるので、運営は抑えられたのかも。収入は100万弱のはず。
- ・広報は、SNS(Facebook、ブログ、Twitterなども活用)
- ・アンケートは、各会場、ポスターにメッセージカードを貼ってもらう形で取ったそう。



『この世界の片隅に』

みんなのみなさんご一緒

おとな: 前売 1,000円 / 当日券 1,200円
 こども: 前売 800円 / 当日券 1,000円

9月23日(土)	9月24日(日)
10時30分~ 大移公民館	10時30分~ 江田島公民館
14時30分~ 津美ふれあいセンター	14時30分~ 農村環境改善センター

主催: 『この世界の片隅に』江田島市上映実行委員会(代表: 中野 洋一) / 後援: 江田島市、江田島市教育委員会、江田島市観光協会、江田島市社会福祉協議会、江田島市商工会、江田島市PTA連合会、江田島市子ども会連合会
 協力: 江田島市ジュニアリーダーズクラブ お歌・あむむせ 地域おこし協力隊 TEL 090-1790-9904(携帯)

この世界の片隅に 江田島市上映会 - Facebook

この世界の片隅に上映会 [RCCイベント情報] RCC

この世界の片隅に 江田島市上映会 - Together

この世界の片隅に 江田島市上映会 hashtag on Twitter



大崎上島

- ◎所在地/広島県豊田郡大崎上島町
- ◎面積/38.34 km²
- ◎人口/7,691人(H29.10.31)
- ◎宿泊施設/あり
- ◎お食事処/あり
- ◎公衆トイレ/あり
- ◎駐車場/あり
- ◎島内交通手段/あり
 - ・町内バス(循環線)
 - ・町内タクシー



島の人々がふらりと集まる場(観光案内所)



観光しやすいくみ(レンタルモビリティ)



島内観光しやすいくみ(観光案内所観光用自転車)

マルシェの定期開催



百島

- ◎所在地/広島県尾道市
- ◎面積/3.08 km²
- ◎周囲/11.9km
- ◎人口/485人(H29.10.31)
- ◎お店情報/食料品雑貨屋数店あり
- ◎宿泊施設/あり(要予約)
- ◎公衆トイレ/あり
- ◎駐車場/あり
- ◎島内交通手段/あり
 - ・レンタサイクル(福田港)
 - ・バス(1日数便)
- ※福田港から本村・診療所前を經由して泊港へ
- ◎備考/各所に自販機(飲料用)あり
- ※食物は乗船前に用意するのが無難



イベントがしょっちゅうあるわけではないけれども、見せ方がうまく、常設で見れるものがある。



「一度行ってみたい」というお店や場所があり、それぞれ発信の仕方がうまい



その他

-佐木島 DATA-

- ◎所在地/広島県三原市
- ◎面積/8.72 km²
- ◎周囲/18.2km
- ◎人口/710人(H29.10.31)
- ◎宿泊施設/あり
- ◎お食事処/あり
- ◎公衆トイレ/各港内、長浜海岸と幸神の間、塔の峰にも公衆トイレあり。
- ◎駐車場/あり
- ◎島内交通手段/あり
- ・レンタサイクル(三原港)
- ◎お店情報/各集落に小規模商店あり
- ・鷗港近くに産直市場あり
- ◎備考/各所に自販機があるため、飲み物に困ることはない。



さぎしまの物件も、こういうサイトで取り上げてもらえるといいのでは？

The screenshot shows the homepage of the 'Minto' real estate website. The header includes the Minto logo and navigation links. The main banner features the text 'みんとについて ABOUT' and 'ひろしまを、見てみんと。新しい自分が芽吹く場所。探そう。' (Discover Hiroshima with Minto. Find a new place where you can grow). Below the banner, there is a grid of property listings, each with a photo, a price tag, and a '詳細' (Details) button. The listings include various types of houses and apartments.

B. 視察の実施：

実施時期	2018年2月3日（土）
対象	岡山県笠岡市笠岡諸島、北木島
参加者	佐木島メンバー/ 河本吉重さん、平木政則さん(2017年度トライアスロン実行実行委員長) しまらぼメンバー/大山、志和
目的	近隣の島で、地域活動を活発に行っている地域へ伺い、活動の話を聞く。

島側は7月のワークショップ以降調査活動に関わっている八重潮の会の河本さんと、佐木島が30年弱継続しているトライアスロン大会の2017年度実行委員長を務めた平木さんの2名、しまらぼも2名の計4名で訪れた。ミーティングに参加した濱本さんは、農繁期のため当日は不参加となった。北木島側は、NPO法人かさおか島づくり海社の事務局長石井さんにご協力頂き、北木島含め、島づくり海社がカバーしている笠岡諸島の状況や取り組みについて伺った。

参加メンバー所感

- ・北木島には、石と丁場という大きな資産があり、これを生かした取り組みが必要で、石材社が開設した北木島の産業を伝える石の資料館「K'S LABO」がいい例であり、K'S LABOには自転車、ボート、ボード、カヤック、ウインドサーフィン等の貸出がある。佐木島にもレンタサイクルはあるが、活かされていない。
- ・佐木島では、柑橘、分葱、メロンをはじめとする農産物、トライアスロンの島、盆踊り、桜、磨崖和霊石地蔵、三十三観音、八十八か所お大師さん、太平山等の色々なものがあり、これらを生かした取り組みがさらに必要である。
- ・北木島では、若い!ターンの人がいるのは、素晴らしい。
- ・NPO法人「かさおか島づくり海社」のような組織の専属の人がいるのはいいことだが、ある特定の業務だけをずっとしているのでは、発展は望めない。何か新しいことを部署、例えば島の活性化に取り組むNPO法人などが必要だという学びがあった。
- ・いろいろな活動をして、地元にお金が落ちないと活性化しない。佐木島には人は来ても、何も買うものがない。いろいろ開発しているが、まだまだである。かんきつを使った物産品はいくつかあるが、佐木島の施設(コミセン、セミナーセンター、佐木港、向田港、海水浴場等)では購入することができない。北木島ではK's LABOで物産品も販売している。

【北木島視察レポート】2018年2月3日

【石材産業】



明治期に関東進出しブランド石材として売り出す晴国神社、日本橋などの材料に活用された
現在は加工中心に約30件採石まで手掛けているのは2件※うち1件は地元旅行会社が採石場見学をツアーにしている

【一次産業】

- 農業従事者は元々少なく、JAは金融業の役割が主。
※一部地域しか回れなかったが、広い畑は見かけなかった。
近隣の白石島で農業法人を組織し分社化した人もいる。
- 漁業従事者は10件程度と現在は下火。笠岡漁協より福山漁協へ水揚げする方が値がいいのでそちらへ揚げに行く人も。

【島内施設】

- 小学校6名、幼稚園3名、中学校6名
※六島に保育所「あゆみ園」があり、現在先生3名に対し子ども1名。5～6人の大家族2世帯の子ども達により、六島の平均年齢が下がっている。
- 診療所「石切の杜」に1件。
- 笠岡市役所支所が1か所。職員1名・パート1名。
- 店舗：小さいスーパーあり、食事店舗3件中1件は農産物産品の資料館及びカフェ「K's labo」が2017年11月にオープン。(鳴本石材さんの資本による) レンタサイクルも可。
- 宿泊は旅館1軒、民宿1軒他に石切の杜がある。



【かさおか島づくり海社について】

笠岡諸島全体の地域インフラを支える活動を推進している

【石切の杜】運営

研修及び高齢者の生活支援施設、診療所として活用されている



古い幼稚園を事務所として活用
当日は島づくり海社石井さんにご対応頂きました



コミュニティバスの運行にあたり、法人格取得のためNPOに。人件費が出ず赤字だが市の委託で活動し補助が出るので保っている。職員8名(平均50代)、20代の職員・インターンが3名。

【コミュニティバス】

ドライバーは島の有償ボランティア。週3日、1日3便。区内移動200円、区外360円。



【特産品のブランディング】

笠岡諸島全体の特産品を取りまとめ、ラベルを統一化して販売。ネットの他、笠岡近辺のアンテナショップ、道の駅、伊勢丹などへも。



【きずな便】

イオンネットスーパーを活用。登録者約30名、利用者16名ほど。発送・仕分け・配送などを海社がとりまとめる。

【光劇場再生プロジェクト】

「北木ノースデザインプロジェクト」というアート企画のひとつとして、大学生の地域調査をきっかけに、島の古い映画館を再生するプロジェクトが行われた。しかしながら施設の老朽化により現在は閉館。すぐ横にカフェがあり観光客に見せることも。※このプロジェクトきっかけに夫婦1組、男性1名が移住した。(当時2016年の内部の写真)



劇場入り口の古い看板



カフェ内部

【石切の杜】宿泊研修及び高齢者生活支援施設・診療所として

島づくり海社が運営を担う。宿泊定員は50名。アクティビティ体験等も。市の指定管理になる前からのお付き合いで特例として年1回、130名の宿泊研修を神戸・須磨学園から受けている。給食手配をはじめ、移動車など、海社が中心となり島中の力を総動員してアクティビティ体験なども対応する。他、岡山大学、県立大などの研修も受け入れ。予約は5名から。入浴設備はシャワーのみ。※スポーツイベントを開催する案も出たがシャワーしかないという点で難しいと指摘もあったそう。

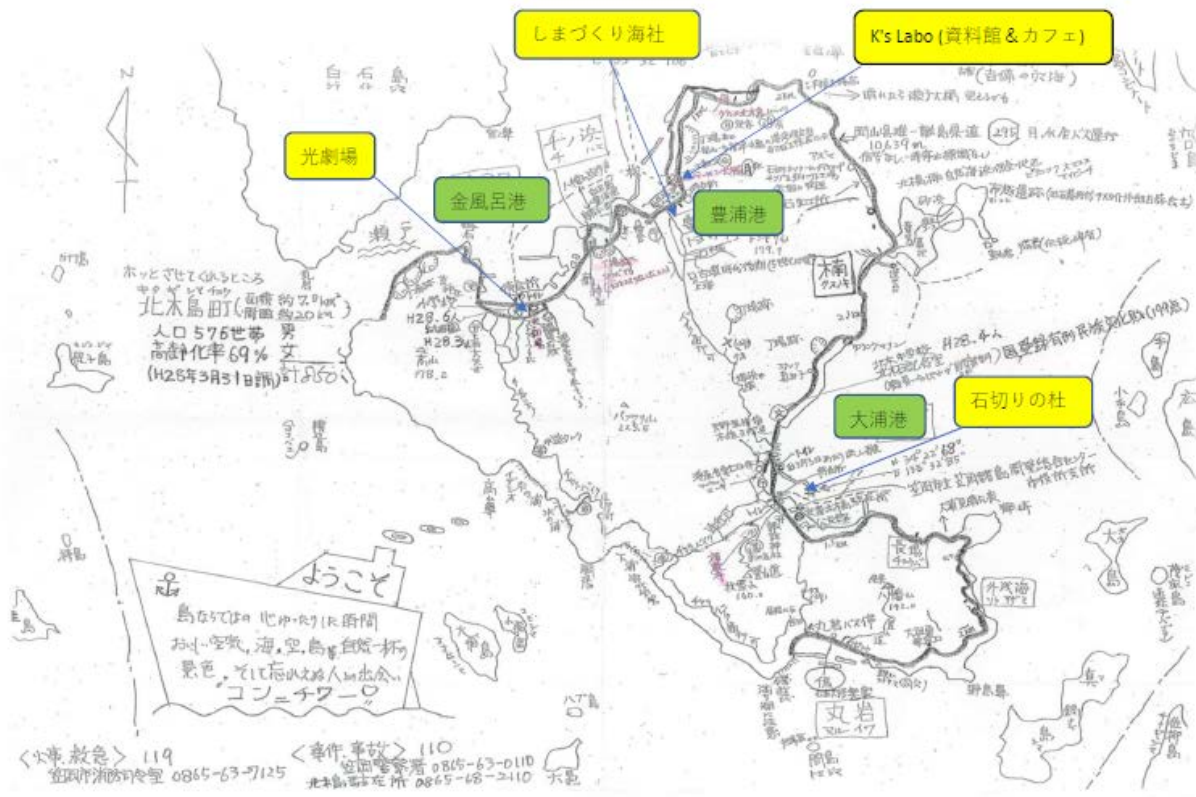


1階に生活支援施設



北木島診療所





2. パイロット事業

⑤ 企画

実施時期	9月16日(土)
対象	河本吉重さん、濱本大輔さん、
目的	ワークショップに3部とも参加してくれた島の40代、50代を中心にワークショップの振り返りをしながら、今後のアクションについて島の人の意見や意向を引き出す。

7月のワークショップの話で上がったキーワード「人が集まる場」をもとに、しまらぼが案をいくつか用意し、島の人が面白そうなこと、やってみたいことを進めることにした。今までふるさと6期・しまらぼを通じて自分たちが考え進めていたイベントが多かったので、これもまた新たな試みといえる。

企画内容

- ・ 港の待合室のDIY企画
- ・ ジビエブランド研究会
- ・ あさり養殖の再生企画
- ・ 島を探検する企画
- ・ せとうちの島をつなぐマルシェ
- ・ さぎしまシネマ

島側のコメント：

濱本さん： 興味があるもの3つ。

シネマイベントは実現可能でいい。上映する映画でもめそう（笑）

せとうちマルシェは潮焼きイベントとコラボできそうでよい。出店数は少なくて良いと思う。

宝探し大会も塩焼きイベントとコラボできそうで良いがけがや事故が起きたときの責任が問われる

河本さん： 興味があるもの2つ

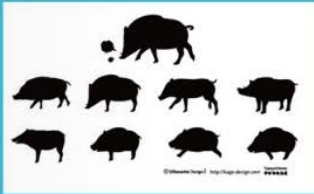
「島の玄関を塗ろう」は、須ノ上港の待合室がプレハブなので手始めとして最適ではないか。

シネマ上映会は時候が良い開催なら野外でできたら最高。八重潮の浜でシネマ&お月見会とかできたら楽しそう

→上記2名の意見を参考に、パイロット事業としてシネマ上映会を行うことが決定。

企画プレゼン資料：

ジビエ ブランド化 プロジェクト



- すること：島で増えている猪をさぎしまの物産として活用したい。かんきつで育てていて臭みのない猪肉として価値はある。処理設備を導入することを目指し、猪肉を食すイベントを実施
 - ・ 表向きはさぎしまの地のものを食べるイベント（かんきつ・わけぎ・トマト）
 - ・ BBQもしくは島のお母さんのレシピで猪肉を味わう
 - ・ シシ肉を扱っているむねさんに、島の猪について話してもらう？
- 対象：さぎしま在住のひと、三原市近郊のひと
- 許可：N/A
- 事前準備：むねさんやとんちゃんにフィージビリティ・ヒアリング
- 必要な備品：食材、調理器具、飲食用食器、飲み物
- 予算：5万？
- 告知先：Facebook、回覧板
- 時期：10月でも可能かも
- 参加費：有
- 参考：<http://www.gibier.or.jp/faq/>

ワークショップ 『みんなで島の 玄関を塗ろう』



- すること：①みなと茶屋と自由市場もしくは②③つの港の待合室を塗り替えて、さぎしまの玄関を明るい雰囲気にした
- 対象：さぎしま在住、三原市近郊、さぎしまに行ってみたい人なら誰でも
- 許可：三原市？港湾課？元気さぎしま協議会？※保守費などの予算があれば、それを使えないか相談
- 事前準備：デザインを島の人と決めておく
- 必要な備品：ペンキ、はけ、軍手、ばけつ、タオル、工具など
- 予算：5万？
- 告知方法：Facebook、回覧板
- 時期：11月の3連休？
- 参加費：有り（個人配布物やお茶菓子）
- 参考：①<http://www.hiro.kindai.ac.jp/blog/?p=4174>
②http://colocal.jp/topics/donuts-culture/sangosan/20170122_89919.html

… あさりの浜 復活プロジェクト - 昔の浜とりたい - … 糞..

深戸内海では、2007年に比べ あさりの収量が 30分の1に減っている。

あさりがとれる 昔の風景とりたい。さぎしまのあさり食べてみたい!! きれいな海がみたい!

<活動として>

- ① あさりが育つ環境を整える (浜、海)
- ② あさりの専門家にアドバイスをもらう
(漁協, 大学の先生, ジャーナリストの方など)
- ③ あさりが育っていた頃の さぎしまについて
知っている人に話を聞く
- ④ あさりのおいしい料理を食べる, 作る

<環境づくり>

時期: 春と秋に産卵
 幼生は3週間ほど海に浮遊。
 石壁に定着する。
 (水温 19~24℃, 水深 0.6~0.9m程)

天敵: カニ, エイ, ヒナギ など

稚貝が安全に定着し住める場所づくり提供
 大きいネット袋(農薬用)など
 漁りを入れ 海中に沈める



<11月(仮)イベント案>

あさりのおいしい料理を楽しみながら、
 専門家の方の話を聞くなど、あさりに興味
 を持ってもらえる方を集めて小さいイベントを。

<気になること>

- ・以前 挑戦していたがなかなか
 経費をきいてみる
- ・資金(ネット, 漁りなど)・管理
- ・協議会の許可は必要かどうか

<視察>

他地域の
 養殖場を見学
 (深戸内近郊)

さぎしま わくわく宝探し大会!

★島全体をあそびの場として遊びつくす!
 宝探しやオリエンテーリングなど普段あまり行か
 ない島の1歩奥へ足を踏み入れ、島の新たな魅
 力を発見!

対象: 島内外のファミリー、老若男女

参加費用: 1000円(ランチ付き)

備品:
 ロープ、クイズや仕掛け(要確認)、
 指示物、景品、ランチ

許認可関係:
 道路など場所の使用許可

予算: 2-3万円

展望:

1. まずは小さく始める
 安全面を考慮し、まずは島の一部のエリアで
 始める

2. 受け入れられれば、
 不定期開催→定期開催へ
 規模をちよつとずつ拡大、島全体が遊びの場
 へ!
 学校のレクリエーション活動や林間学校誘致へ。

メリット: コスト低い、老若男女で楽しめる

懸念点: けがや事故が起きないように安全性



ハンターファミリー参上!

若菜ちゃんお宝探し!

発見の瞬間!

参考: リアル宝探しタカラッシュ <http://www.takanush.jp/about/>

せとうちマルシェ in さぎしま

★瀬戸内の島のつながりを活かし、島の特産品を通して島のPRと島のつながりを作る！

出展者：
瀬戸内の島 (or さぎしまとご縁のある場所：東北、三原各地、など)
客：島内在住者、来島者

出展料：無料 (認知があるまで)

備品：テント、テーブル、棚、黒板、装飾備品

許認可関係：
道路など場所の使用許可
営業許可→出展者に
露天営業許可、臨時営業許可→出展者

予算：3-5万円 (備品はなるべくあるもので、告知費用)

展望：
1. まずは小さく始める
10店舗ほどを目指す。備品は島にあるもので賄う。
会場は要確認 (港の駐車場が高校の校庭など)
2. 受け入れられれば・・・
不定期開催→定期開催へ (ルール作り)
規模をちよつとずつ拡大
各島をめぐるキャラバン形式に！

メリット：特産品など島のPRができる。横の繋がりができる。
キャラバン展開が見込める。 [島をめぐるマルシェのようなイベント]

懸念点：
集客がどこまで見込めるか。
→イベントに合わせる？
ほかのマルシェとの差別化。
→物々交換？ 山交交流など？

因島
いんのしまマルシェ

大三島
大三島参道マー
ケット

豊島
豊島マルシェ

周防大島
島のむらマルシェ

沼島
物々交換マルシェ

参考：瀬島経済新聞 <http://ritokei.com/article/news/472>
瀬戸内Finder <https://setouchifinder.com/ja/detail/969>、丹波ハビネスマーケット <http://happinessmarket.jp/>

さぎしまシネマ



★島で楽しむ贅沢な空間。
島ならではの静かな環境を活かし、野外映画上映会。
老若男女が楽しめるエンターテインメントで非日常を創出！

対象：島内在住者、来島者、世代問わず

参加費用：500円

備品：
プロジェクター
スクリーン or ホワイトウォール
上映する作品

許認可関係：
著作権使用料 (申請から約1週間)
映像使用料... TBC
道路など場所の使用許可

予算：著作権使用料 1000円 (上記入場料×100名見込み)
業務用DVD貸出し... 30,000円～

展望：
1. まずは小さく始める→DVD上映会
港の駐車場が高校の校庭など屋外の会場 (要確認)
2. 受け入れられれば、
不定期開催→定期開催へ
キッチンカーなど誘致、規模をちよつとずつ拡大
例：企業との協賛をとりてネブクロシネマなど、出張上映会

メリット：
老若男女で楽しめる。島でエンターテインメントを楽しむ

懸念点：
業務用DVDの貸出料金が未確認！ (けがや事故が起きないよう安全性。4)

参考：ネブクロシネマ <http://www.nebukurocinema.com/>

Kino Iglu <http://kinoiglu.com/event/?p=3444>

JASRAC <http://www.jasrac.or.jp/info/event/cinema.html>、業務用DVD貸出問合わせ一覧 http://jva-net.or.jp/contact/contact_list.pdf

⑥ 事前準備

目的	1. シネマをフックに世代を超えた人が集まる楽しい場の創出。 2. 今まで接点のなかった住民の参加も期待する。 3. 島の人と一緒にイベントに取り組む
対象	今まで接点のなかった住民の参加も期待する。世代を問わず、大人・子供も含めた老若男女。子供も視野にいれることで30, 40代の親も呼び込みたい。
企画担当	河本吉重さん、濱本大輔さん、しまらぼ(大山、志和、灘波)

上映タイトルの選定

当初、上映作品は1つの予定だったが、事前のヒアリングで頂いた声を生かしたいので、上映を2部制にすることにした。島民から上がった声をもとに、以前佐木島の中で撮影された作品「夏の王様」を1日目に前夜祭として上映することにした。2日目は、世代を問わず楽しめる作品として、いくつか区補を絞り最終的には河本さん、濱本さん、しまらぼメンバーで相談して「SING」を上映会することで決定した。非営利イベントとし入場料の徴収をしなかったため、次回継続する場合には検討課題である。

機材について

できるだけコストを抑えるため、佐木島内で元気さぎしま協議会、鷺浦小学校、三原市役所に貸し出し可能な機材を確認した。結果、元気さぎしま協議会、三原市役所からプロジェクター、鷺浦小学校からスピーカーの貸し出し可能との回答を得る。プロジェクターは、スペックを確認して三原市役所から借りることとした。スピーカーに関してはスペックに不安があるため、アンプと一緒に専門業者からレンタルを手配し、鷺浦小学校のスピーカー、元気さぎしま協議会のプロジェクターをトラブル時のサブとしてキープする。音響機材に詳しいメンバーがいなかったため不安があったが、濱本さんが島内を当たり音響機材に詳しい中村さんが協力してくれることになる。

タイムスケジュール、会場

会場については事前視察と、協力してくれる島の方の推薦もあり、旧須ノ上小学校とした。島側との事前打ち合わせの段階で、「満月の日にお月見イベント的にやるのはどうか」との話があがっていたので、当初は夜の間屋外でのスケジュールを企画していた。しかし、①船便のスケジュールを考えると夜間のスケジュールはタイトになること、②时期的に屋外は肌寒いということもありスケジュール、会場の見直しを行う。最終的に、旧須ノ上小学校の体育館で夕方からの開催とする。

参加費について

有料・無料について意見が分かれる。有料にして今後の方向性を探りたいとの話もあったが、有料になるとそれなりのサービスを求める傾向があること、子供の声など気にしてクレームがでる可能性もあり、ファミリー層をターゲットに大人と子供と一緒に楽しめるような、ゆるい会場の雰囲気を作りたいかったこと、有料にするとDVD素材などが高くなることもあり、今回は無料で実施し、アンケートなどで今後の方向性を探ることにした。

飲食の提供について

河本さんが主宰されている佐木島の海水で塩をつくっている「八重潮の会」の塩をご提供頂き、ポップコーンが無償提供することで、八重潮の会の塩をPRにつなげる。

また、飲食の提供について、佐木島出身の大泰司さん（4月ヒアリング対象）、八天堂ご当地バーガーコンテストに参加した鷺島スイーツバーガーのメンバーに協力を依頼する。保健所申請の関係で、鷺島スイーツバーガーは断念するも、大泰司さんがカフェ出店で協力してくれることになる。

会場までの交通に関して

鷺港（便数の多い佐木島のメインの港）から会場までは、徒歩で30分以上かかるため、島外からの来島者のアクセスを考えると不便さがある。河本さんが、平日に島で運行されているコミュニティバスである島バスを利用できないか、島内で調整をしれくれた結果、当日、島バスを運行することが可能となる。これにより、島外からの参加者にも対応ができるようにした。

会場の装飾・配置について

楽しい雰囲気を作りたかったので、ガーラントなどで体育館の壁面を利用して、スクリーン・受付部分を中心に装飾を行なった。また、「夏の王様」のポスターや撮影当時の記念品など貴重な資料を島の人から借りることができたので「夏の王様コーナー」を設置した。もともとお月見イベントという提案も頂いていたので、スクリーンを張る面を南側の壁面とすることで2階部分の窓から満月がのぞけるような配置にして、満月も楽しめるようにした。

上映会にあたり参考にしたアドバイス

- トヨタ財団より
 - ・100名規模が集まれば、島側へのインパクトがあり、見方がかわるなど変化が出るかも。大きくやるのも、小さく数を重ねるのも1つ。
 - ・島の方に何かお願いする場合はお願いすることを具体的に伝えた方が動きやすくなる。役割を与える。飲食をお母さんをお願いするなど。
 - ・島の人にも運営側で手伝ってもらい、成功体験をもつと「またやろう！」と繋がりやすくなる
- ネブクロシネマより
 - ・機材に関しては、ある程度スペックがあるものを手配した方が良い。
 - ・会場は、実際に候補地で投影してみて決めた方が良い
 - ・前日、島根県益田市イベントは1000名ほどとなった。今回、地元の女性2名から話があり、金額を提示。発起人の二人が地元の会社などを回り協賛金・協力金を募って実現した事例の紹介。

告知方法

- 1) 直接知り合いを誘う
- 2) 島内の新聞折り込み（佐木・向田・須ノ上3地区すべて）
- 3) コミュニティセンター・鷺港・三原港の売店・三原市児童館にポスターを張り出す
- 4) Facebook にてイベントページを作成
- 5) 中国新聞・毎日新聞地方版 イベント案内掲載
※河本さんの提案で記者クラブに投げ込みをして、実現した。

⑦ 実施

シネマイメントに向けて現地視察

実施時期	10月
協力者	河本吉重さん、濱本大輔さん、
視察場所	旧須ノ上小学校、鷺港待合室、向田港待合室
目的	シネマイメントを実施するにあたり、島の人との打ち合わせ含めて、スクリーンの設置など会場となる場所の視察を行う。

確認事項

会場候補として考えていた須ノ上小学校校庭での設置場所の距離感などを計測。その他港の待合室等も計測してみたが、港はどれもスクリーンになる場所がなく、布張りでは風のリスクもあり難しそうな感じもあり、規模感を考えると学校を利用する方が良さそうとの結論。旧須ノ上小学校の校庭でスクリーンを設置できそうな場所を、実際にプロジェクターで投影しながら確認する。

上映タイトルについてヒアリング

須ノ上地区消防団の寄り合い：

アンケートのお礼をする場を濱本さんが設けてくれる。シネマイメントのプレゼンは河本さんが話を持ちかけてくれた。予定を伝え、何を観たいか聞いてみると、話の流れから「夏の王様」はどうか、うちに映像あるかも…と、その気になって話が盛り上がる。作品は早く決めてお知らせした方がいいよ、とアドバイスもあがる。

つきさん(4月ヒアリング対象者)：

島で観るなら、DVDになっていない作品、島や家族がテーマのものとかを観たい。河本さんが推薦してくれた「五島のトラさん」も気になる。娯楽作品であれば家で観ることができるので家で見れば十分。一緒にシネマを手伝ってもらえないか打診したところ、「ぜひ」との回答をもらう。

塩焚きイベント参加者：

「この世界の片隅で」が観たい。三原でも人気で予約しないとみられないので機会を逃している。

藤井さん：

集めたい対象者を絞るのは良いが狭めすぎると次からが続けにくくならないか。最初に島の人を集めて上映会を続けていくなかで対象者を広げていく流れの方が良いのかも？とアドバイスを受ける。

さぎしま★シネマ実施

前夜祭	
日時	2017/11/3(金) 18:45 開場 / 19:00 上映開始
会場	旧須ノ上小学校 体育館
上映作品	「夏の王様」
参加費	無料
参加者	54名(島の帰省者含めて島内在住者)

島の人から多くの希望の声を頂いた、2001年にNHKで放送された佐木島が舞台となった「夏の王様」を前夜祭として上映した。出演している人やサポートした人も多く、50代以降の人を中心に、ご家族で見に来られる人もいた。移住者からは、「このドラマのことを話には聞いて、いつか見たいと思っていたので良い機会だった」との声も聞かれた。



貴重な資料がならぶ「夏の王様」コーナー

前夜祭の雰囲気。比較的年齢層は高めではあるが、ご夫婦や家族で見に来てくれている人も多く、ドラマの後に流した地元テレビ局のインタビューなどは盛り上がっていた。



上映会：さぎしま★シネマ	
日時	2017/11/4(土) 16:30 開場 / 17:30 上映開始
会場	旧須ノ上小学校 体育館
上映作品	「SING」
参加費	無料 + ポップコーン付き (八重潮の会の塩を利用)
参加者	54名 (島の帰省者含めて島内在住者)
出店	高根パラディーズ

島外からの参加者に備えて、鷺港の待合室前に看板を設置して(右の写真)、三原方面から到着するフェリー・拘束的に合わせて、しまばすが待機する(下)。今回、因島方面からの到着便への対応を失念していて、因島からの参加者からバスがないとの連絡をもらうが、運転を担当してくれた河本さんが迅速に対応して事なきを得る。



佐木島の海水から塩の炊き出しをする八重潮の会から塩を提供してもらい、配布用のポップコーンを作る。今後、炊き出しのイベントと組み合わせるのも面白いのではないかな。



会場の受付の様子。こちらでポップコーン、協定関係者のチラシ、アンケートを配布する。あらかじめ受付をお願いしていた人が参加できなくなり、急遽、島民の平本さん、フレスタHD佐木島ファームの滝田さんが助っ人として手伝ってくれることになった。結果として、今まで繋がりがなかった人からのサポートを得ることにつながった。





高根島からカフェ出店してくれた高根島パラディーゾの大泰司聡美さん。上映前にカフェの雰囲気を感じに来る人の姿もあり、カフェだけの利用で来る人もいた。佐木島出身ということもあり、佐木島で柑橘農家を営む親戚のみかんジュースを提供するなど、家族総出でカフェを営業して会場を盛り上げてくれた今回の立役者といえる。

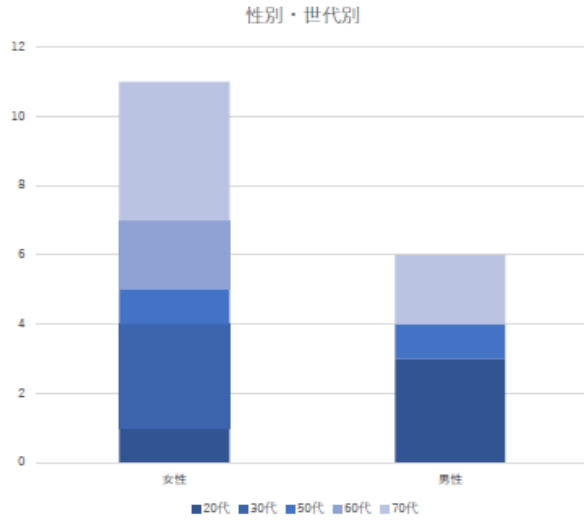
上映中の雰囲気。走り回っている子供もいたが、音楽に合わせて踊っている子供の姿も見られ、会場は終始和やかな雰囲気だった。上映後は参加者も片づけを手伝ってくれるなど、島民の自主性を感じる場面もあった。



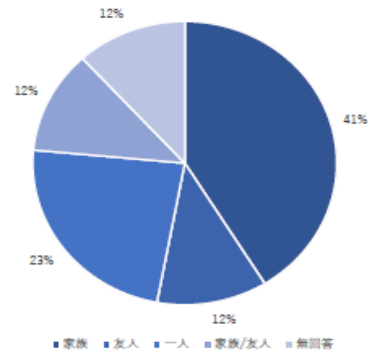
会場を3時から開けていたこともあり、上映会前にカフェの飲食を目当てに何人か島の人が足を運んでカフェタイムを楽しんでいる光景も見られた。上映前に子供たちが体育館で走り回り、前夜祭よりにぎやかな雰囲気、地元の小・中学生が会場を覗きに来てくれていた。前夜祭の雰囲気とか異なり子供連れのご家族の参加者がみられた一方、連日参加してくれる人も約半数ほど見受けられた。カフェ出店者つながりで、因島からの参加者もいたが、三原市内からの参加者はいなかった。

⑧ 振り返り さぎしま★シネマ参加者のアンケート結果：

アンケート回答者について

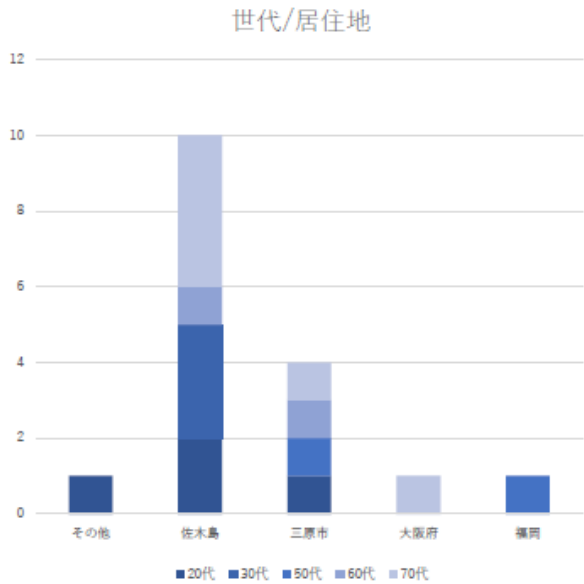


どなたといらっしゃいましたか？

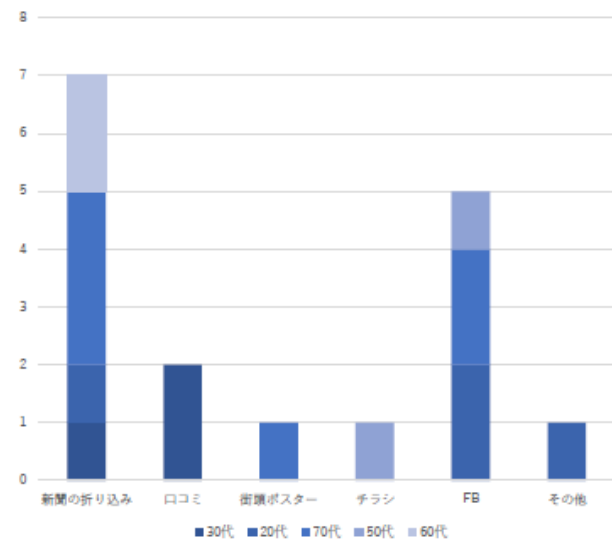


参加者	54名
回答者	17名
回収率	31%

アンケート回答者について

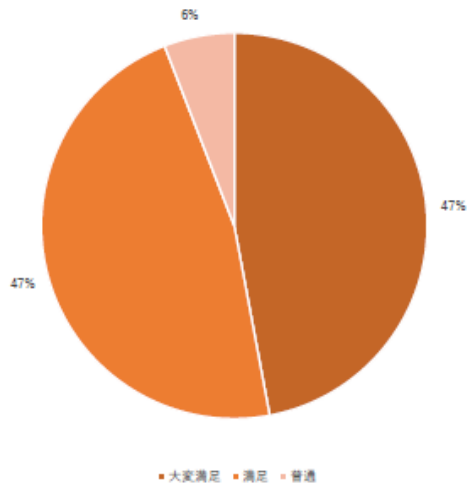


何でこのイベントを知りましたが？

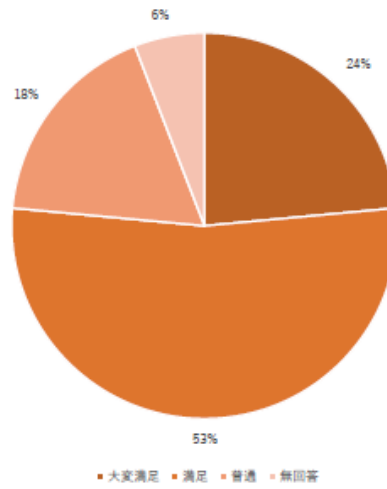


さぎしま★シネマの満足度

シネマの満足度はいかがでしょうか？

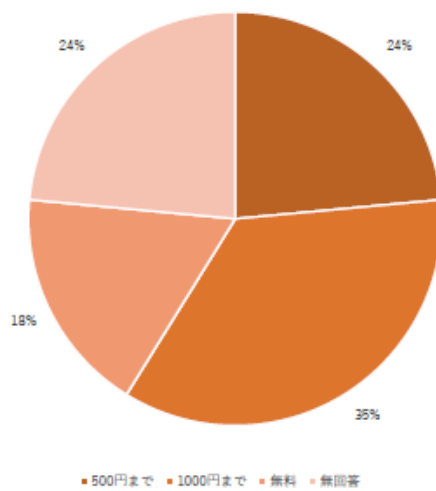


出店したカフェはいかがでしょうか？

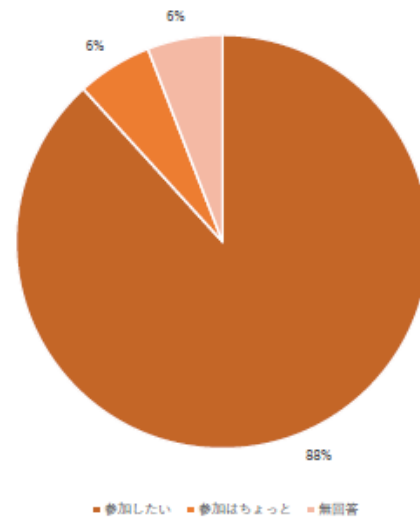


今後にむけておしえてください。

有料の場合、いくらだったら参加しますか？



次回シネマイベントに参加したいですか？



アンケートの振り返り

- ・ アンケートの回収率が約30%と低い。
- ・ 幅広い世代が参加しているが男女ともに40代の参加者がなし。
- ・ 島外からの参加者は1組だけだったことを考えると帰省している人の参加がうかがえる。
- ・ 参加者の半数近くは家族と一緒に参加している。
- ・ シネマイベント、出店に関しては満足度が高い結果となり、「次回も参加したい」と回答した人が90%近くとなった。
- ・ 今後の課題として資金面があげられるが、約60%は有料に対しては肯定的な回答となった。今回、ポップコーンを無償提供しているの、ポップコーン付のパッケージで有料とするか要検討。
- ・ 告知方法としては、島内は新聞折り込み・Facebookの告知が有効的だといえ、直前だったこともあるのか新聞の記事掲載は意外と振るわなかった。

振り返り

- ・ 小中学生や子供、その親など今まで接点のなかった人が参加。
- ・ 会場で子供がのびのびと駆けまわられるような楽しめる場を作ることができた。
(島で活動していた過去3年で初めて)
- ・ 島の人と一緒に進めることで今までにない協力・運営体制をつくることができた。
- ・ 今回、音響機材まわりをサポートしてくれた中村さん、人手が足りず当日の受付を手伝ってくれたフレスタHD佐木島ファームの滝田さんなど、今まで接点のなかった人が運営を手伝ってくれた。
- ・ イベントをフックに島を人の想いをサポートできる場となった
(島出身の大泰司さんにカフェ出店、八重潮の会の作った塩のPRなど)
- ・ 準備物・工程表などの共有がもうすこし早ければ、もっと島側でサポートできたかもしれない
(濱本さんよりいただいたコメント)
- ・ 運営側の人員不足もありアンケートの配布・回収が徹底できていなかった
- ・ 当日の流れ、参加者同士のコミュニケーションを誘発する仕組みが不十分だった。
- ・ 島外からの参加者が少なかった。

課題

- ・ 上映する内容で参加者が変わる
- ・ 島の人口を考えると、そもそもターゲット層は少数派となるので今後のターゲット設定をどうするか
- ・ 運営費などマネタイズについて
- ・ 島外からの呼び込み！（これ重要！）
- ・ 島の方から自分たちでやりたいというような環境作り
- ・ シネマをフックにした仕掛けづくり

V. 考察

今回、助成金を受けることにより、以前より頻繁に島へ足を運ぶことが可能となり、島の人とのコミュニケーションを重ねることができた。

「島に若い人はいない」

今まで話聞いていたが、1年間、毎月足を運び続け、いくつかの試みを行うことで、数は多くないかもしれないが島で暮らしている若手を顕在化することができた。しかしながら、当然のことではあるが、島で生活している若い世代に「地域を元気に！」というストレートなメッセージで声をかけても、うまく繋がることはできない。花に蝶や虫が集まってくるように、なんとなく楽しいことをやっていると、人が集まってくるようなきっかけを作り、接点を増やしていくことで関係性を築き、うまく巻き込んでいくことが大切ということ。Studaio-Lの西上さんからWSのアドバイスで頂いていたが、「さぎしま★シネマ」を実施することでより実感することができた。

「自主性の島民性」

鷺浦小学校を見学して、限られた児童数のなかで自発的に動くこと、限られた人数のなかでお互いを認め合いうまく協力して物事を進める土壌が佐木島には備わっていると感じた。ワークショップで出てくる意見やヒアリング、折々の振り返りなどで島の人から具体的な意見が出てくることに驚かされた。しかし、佐木島では、住民が自分たちの手でトライアスロン大会や各地区のお祭りを運営してきた背景があることを考えると当然のことである。島側の方が島でイベントをするにあたって、運営ノウハウ・経験値を持っていて、島民それぞれの得意不得意を把握していることを、シネマ上映会と一緒に実施するにあたり感じた。双方の役割分担をクリアにすることにより、より共働、共創できる環境が整い、可能性が広がるのではないかな。

「接着剤のようなつなぐ役割」

「●●さんこうやってちゃんと話すのは初めて」「〇〇さんが参加するのはあまりみたことがない」とここ1年で耳にした言葉である。お互いをよく知っているからこそ、島の人が企画する活動では顔なじみのメンバーが集りがちでメンバーの固定化がおこりやすい。しまらぼと同じような外部のサポーターが関わることで、今まで接点のなかった人同士をつなげることができるのではないかな、今回プロジェクトで1年島に通い続けて感じることもできた。今までにない化学反応のような「つなげる」ということをこれからは今まで以上に意識したい。

VI. 今後の展開

「小さな井戸端会議のような「場」づくり」

今回、ワークショップ実施して、もう少しコミュニケーションを重ねる「場」が大切だと感じた。とはいえ、アンケートや振り返りで島の人のコメントにもあがっているように、ワークショップなど日程を決めて人を集めようとすると、日程によっては島の活動と重なり参加者が限られる場合も多く、参加するメンバーが固定化することも多い。佐木島にいくタイミングで、小規模でも良いので井戸端会議的な「場」を意識して作っていくことで、島の中でも今まであまり接点のない人同士が繋がるような機会をつくっていくことはできるのではないか。そのような「場」を設けることで、今までになかった意見、島の人のやりたいことなど見えてくるかもしれない。また、この井戸端会議のような「場」を重ねることで、「子供たちが島でやってみたいこと」を島の大人たちがサポートするような機会をつくっていけるようなきっかけがないか探っていきたい。

「島の方と共働する取り組み」「娯楽(=楽しめる場)を提供」

パイロット事業のシネマ上映会を通じて、島の方と共働する形は今までとは異なる関わり方となった。とはいえ、こちらが提案した企画だったこと、1つ1つがはじめてのことで手探りのなか進めていたこともあり、自分たちでやりすぎた感も否めない。音響関係に関しては、最終的には島在住の中村さんが自らご自宅のアンプを持参して積極的にサポートし、平本さんやフレスタHD佐木島ファームの滝田さんは受付を手伝ってくれた。島の人にゆだねられるところは、もう少し委ねられたら良かったのではないかと率直に感じた。今回のような共働をする場を重ねることで、それぞれの役割がよりクリアになってくれば、より共働しやすい環境が整ってくる。次回は作品選びの段階から島の人に関わってもらうなど、少しずつ島側を巻き込む形で進めていきたい。

「島民のやりたいことを形にする場」

シネマ上映会には拡張性があると感じた。今回、ポップコーンを配布することで八重潮の会の塩のPRを行い、カフェ出店を島の関係者にお願いすることで出展者と島の人をつなげることができた。また、音楽イベントやマルシェなどを上映会の前後につなげてプログラムを組むことも可能である。このように、単に人が集まるだけでなく、身近な人の小さな夢を形にしていく「場」としてもシネマ上映会は有効である。今後、シネマ上映会を通じて、島の人がやりたいことを状況に応じて少しずつサポートしながら実現していくことができると、よりおもしろくなっていくのではないかと。

ただ、課題は山積みである。今回は助成金を活用できたが、金銭面は今後の課題となる。今回、極力コストを抑えることで、今後自分たちでシネマイベントをやるにあたり概算の目安は作ることができたが、このイベントを継続するため、チケット制にするなど、資金調達の方法についてさらに検討を重ねる余地がある。また、島外からの参加者が少なかったため、次回の開催にあたっては、島外の人がフェリー代を払ってでもイベントに参加したいと思うような仕掛けを考えていく必要がある。島外の関係者も巻き込みつつ、少しずつ輪を広げていきたい。

最後になりましたが、1年か様々なかたちで協力してくださった皆様に感謝いたします。

これからもゆるやかに活動を続けていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

しまらぼ(大山・志和・灘波)